

■はじめに

最初にあえて申し上げておきたいことがあります。私はこれから述べようとする事全ては、[私の方便] です。ですから、どうか鵜呑みになさらないで下さい。このことは、私は本当にそう思っていることなのです。だからといって、いい加減なことを申し上げているわけではありません。

そういうものの、講師として皆様の前に立たせていただきます。それは、あることに関して多少掘り下げて探求してきたことがあるということによるだけのことです。

失礼を顧みず、あえて申し上げますと、どんなに高名で有能な先生であったとしても、その領域において深く探求され、人間社会に功績があったことによるものであって、私は原則として [その先生の方便] と観るようになっています。なぜなら、その功績が、人の想いの流れに沿うものであって、自然の摂理にかなった生き方を促すものであるとは限らないからです。そういうものの長い歴史の中においては、今問題として見えていることであっても、それが問題と見えたことによって改まることもあり、安易に良し悪しを評価する事ではありません。

■それでも方便だと言う理由

それは至らぬ自分に気づく機会があったからです。この事に気づいてから、自分の考えを主張するという様な事が無くなり(正しくは減った?)、真意を聴こうとすることができるようになりました。

自分の身の回りだけでも、いろいろな人が、いろいろな考えや思いを持って、いろいろな生き方をしてくれて、今いろいろな状態を呈しながら、今を生きておられます。私もその一人です。

そのいろいろな人は、人それぞれの生まれた環境や育った環境により、それぞれの生い立ちの違いによって、成るべくして成った結果が [自分の状態] であり、[人間の状態]・[社会の状態] であり、それらの影響を受けて [自然の状態] が今の様相を呈しているのではないのでしょうか？

私たちの目に見える [今在る状態] を、自分であれ、専門家であれ、[人の手で治す] のではなく、[今在る状態の当事者としての自分] に気づき、[当事者自身の在り方を直す] という切り替えができるように、共に指標を持って試行錯誤をするということこそが大切

だと想っています。

この試行錯誤をするにあたって、安易に“口出し(指示)”をしたり、安易に“手出し(治療)”することは、せっかく [問題意識] を持った者に対して、[自らの在り方の問題] に気づく機会を奪ってしまっているような気がしてなりません。皆さまはいかがですか？

私は、自分自身を [人間としての成長過程にある者] と観ています。忌憚無く申し上げます [人間自体が成長過程にある] と観ています。だからこそ、自分自身も含めて、原則として [全てを方便と観る] 様にしているということです。

その様に観れる様になると、至らぬ者同士が、有形無形の持てるものを持ち寄り、持たざる者が持ち帰り、一人一人が試行錯誤する過程を大事にし、それぞれの立場や個性の違いを生かし合える場と流れが生まれるものと想っているからです。

■「いのちアカデミー」の発足に当たり

私の言う事は“方便”ですと言いながら話したいことは、皆様に聴いて戴きたい事があるからです。それは“方

便”ではありますが、私なりの経験に基づいて [大切な事] と確信していることがあるからです。

しかし、それとて、私が関わらせて頂いた [限られた人] との経験による確信であって、[今、生きているすべての人に通用する!] という検証を経ていません。仮に [すべての人に通用する物事] であったとしても、それが [自然の摂理に適っている物事?] という検証を経ていません。

その『検証の過程』を、どのようにして繰り返し広げていくかと言うことが、今後人類にとっての『最重要課題』と確信していればこそその提言です。

その為に、まずは [いろいろな人の、いろいろな心境や体調に通用するか否か] の検証と共に、[今、社会(世界)に通用している物事の観方・捉え方・対応の仕方や文化] 等々の観直しも不可欠です。

これらの検証と改善に向けた取り組みが、より多くの人々の知恵や力をお借りして、万人が納得し、万人が体得し、万人に通用する様になる為の取り組みの基盤づくりを「プロジェクトいのち」を手始めに、「いのちアカデミー」にて、本日スタートいたしました。

■講師としての意識と姿勢

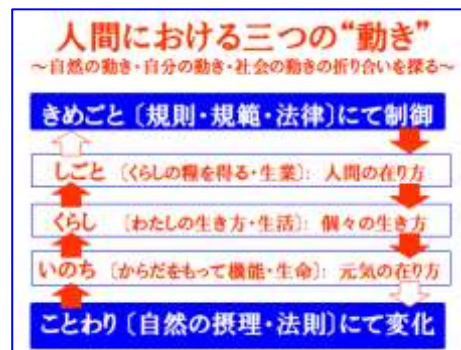
- ※分からない事が沢山ある
- ※出来ない事が沢山ある
- ※至らぬ事があると自覚しているが
- ※一生懸命に取り組んできた事がある
- ※良くも悪くも全てを曝け出します
- ※そして一緒に観察してみましょう
- ※みんなで考察してみましょう
- ※個々に試行錯誤をしてみましょう
- ※現場でも試行錯誤してみましょう

講義の概要

1. 百聞は一見にしかず
 - ※8歳の男児が自分で直す様子
2. 操体法の原理・原則の発見過程
 - ※その発見過程を体験的に知る
 - ※場面・過程を想定し、観察・考察
 - ※自らが、原理・原則に気づく
3. ここで感得する事が基礎・基本
 - ★本講座では基礎・基本を重視
 - ※反応過程(反応性)⇒法則性(原理)
 - ★この上に、各方法が生じる
 - ※反応結果を問題視⇒方法論(各論)
 - ★習い事の「道」に通じる
 - ※毎回目新しい事は何もありません
 - ※各論は、講義の中で随時対応
4. 個体適正実感の原則(異常感覚)
 - ※常識から抜け落ちていた事
 - ※終始一貫してこの探求に尽きる
 - ★身をもって知って下さい!
 - ★身に付けて生かして下さい!

講義の課題

- 全ては法則の下に生じ、変化・・・
- ※法則の下に運行する宇宙
- ※法則の下に動いている原子
- ※その宇宙と原子の間の類似性
- ※法則の下に生まれた地球
- ※その地球に生まれた“いのち”
- ※いのちは身をもって発生・機能
 - ①身(からだ)は、生命現象の場
⇒内なる自然(体内環境)
 - ②環境は、生活行動の場
⇒外なる自然(対外環境)
⇒後に、人間が「社会環境」創る
- ※身の変化に影響する物事
 - ①身辺の状況(適・不適)
 - ②当事者の選択と対応(適・不適)
- ※身に備えもっている反応性
 - ①基本的に〔不適は不快〕
⇒不快に関する誤解・錯覚
 - ②基本的に〔適は快〕
⇒問題意識を持ち難い⇒原点問題
- ※その法則の下に生まれた人間
- ※その一員としての当事者(わたし)



終始一貫する操体法の核心的課題

- 原理・原則は、“唯一つ”
 - “からださん”との遣り取り
 - “快方”と“壊方”を見分ける
 - 当事者は“自分”という認識
 - “直す”と“治る”仕組みを活かす
 - 今、ココ、自分が“心がける事”
 - 生かしあって、“今を共に生きる”
- ### 操体法に於ける原理・原則
- すべてが揺らぐ中での選択?
 - 今、ココ、この自分の感じが指標
 - 感じる部位や不快の種類は問わない
 - 放置していても、関わっても変化
 - 関わる事による変化の動向を識別
 - 何処へ向かおうとしているかを意識
 - ◇最も不快が減る方へ、減る様に…
 - ◇最も安定感が得られる状態に…
 - ◇「幸せへの快」、三つの心がけを…
 - “いのち”を起点に全てのつながり
 - 身をもって知り、身に付けて生かす
 - 身に付けて、生き方として活かす
 - 一人一人の生き方としても活かす
 - 自然界にも通用する生き方を目指す



体感・修得(納得・体得)の為の前提

1. 死んでいたら“病気”はあるか?
2. “多種多様な不快”の捉え方?
3. 他人に“固有感覚”は分からない!
4. その分からない事を出すには?
5. 分かる様に“分ける”事が前提?
6. 「病気」に分けて診る西洋医学!
7. 「元気」の動向を観る東洋医学!
8. 吾身の「元気」に気づかないことには始まらない

修得(納得・体得)・実践の為の課題

- 万事を「揺らぎ」として観れる?
- 万事を「必然」として観れる?
- 万事を「つながり」として観れる?
- 「吾身(いのち)」から観直せる?
- 「自分自身の課題」と観れる?
- 「至らぬ自分」に気づける?
- ◆吾身に『快適性を実感』するには?
 - ◇『関係する物事の適正』を観る指標
 - ※『自分の選択・対応の適正』を・・・
 - ※『第三者の対応の適正』を・・・
 - ◇『時機・時期・時間の適正』を・・・
 - ◇『今、居る場所の適正』を・・・

